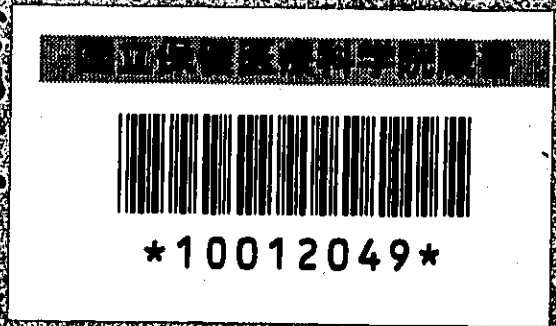


昭和七年三月

國民保健に關する統計

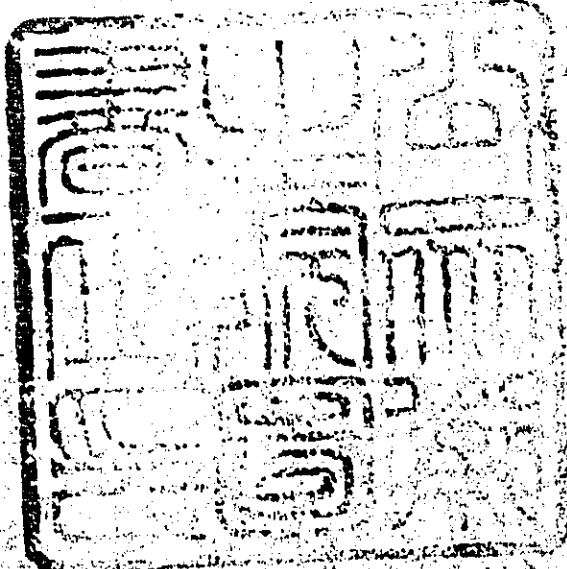
内務省衛生局



昭和七年三月
川上理一氏
贈
公衆衛生院

P-B
Q 昭7
3

P-B
Q 007
18



國民保健に關する統計

目次

一、最近に於ける我國民の保健概況	一
二、各國の生産率	三
三、世界主要都市の生産率	五
四、各國の死産率	八
五、各國の死亡率	一一
六、世界主要都市の死亡率	一三
七、各國に於ける人口千に對する人口の自然増加	一六
八、各國乳兒死亡率	一九
九、世界主要都市の乳兒死亡	二〇
一〇、米國大都市の人口出生率及乳兒死亡	二三
一一、日、英、獨、米各國の日齡月齡別乳兒死亡比較	二四

P-B
Q 007
3
7552

一二、日、英、米、獨、佛乳兒死亡原因比較	二四
一三、英虞蘭及威爾斯に於ける出生千に付一歳未満者の死亡率	二六
一四、英虞蘭及威爾斯に於ける出生千に付一歳未満者の死亡	二六
一五、英虞蘭及威爾斯に於ける妊娠及其他の疾患に於ける婦人死亡率	二七
一六、各國の年齢別死亡率	二八
一七、各國人平均壽命	二九
一八、世界主要都市の結核死亡	三〇
一九、世界主要都市の腸チフス死亡	三一
二〇、世界主要都市の痘瘡死亡	三二
二一、世界主要都市のデフテリア死亡	三三
二二、世界主要都市の猩紅熱死亡	三四
二三、世界主要都市の麻疹死亡	三五
二四、世界主要都市の百日咳死亡	三六
二五、各國職業別人口	三七
二六、全國生産、死亡及乳兒死亡累年表	三八

二七、都市(人口五萬以上ノ市)生産、死亡及乳兒死亡累年表	四〇
二八、年齢別死亡率	四一
二九、平均壽命表	四二
三〇、主なる原因別死亡累年表	四三
三一、原因別死亡	四四
三二、主なる原因別乳兒死亡	四五
三三、結核死亡累年表	四五
三四、人口一萬に對する結核死亡累年表	四六
三五、最近五ヶ年に於ける年齢別肺結核死亡	四七
三六、壯丁の身長體重平均表	四八
三七、學生生徒及兒童平均身長累年比較	四九
三八、學生生徒及兒童平均體重累年比較	五〇
三九、學生生徒及兒童平均胸圍累年比較	五一
四〇、都市及農村に於ける乳兒幼兒發育狀態比較	五二

國民保健に關する統計

一、最近に於ける我國民の保健概況

我國民の保健衛生に關する公私各般の施設、事業等は朝野各方面の盡力に依り年と共に進歩發達を致し多年識者をして憂慮せしめたる國民保健の狀況も輒近漸く改善の曙光を認むるに至れりと雖も尙海外文明國に比すれば遺憾の點尠しとせず。先づ之を國民衛生の良否を知る標準と稱せらるゝ國民の一般死亡率に付きて觀るに本邦最近十ヶ年間（自大正十年至昭和五年）の平均は人口千に付二〇・六なるに昭和四年は二〇・〇同五年は一八・二に低減したるも之を歐洲の諸國に付て見るに何れも本邦死亡率の如き高率のもの無く最も高き伊太利の如きも千九百二十九年（昭和四年）人口千に付一六・一其の他の列強何れも之以下にして獨逸の如きは千九百三十年（昭和五年）僅かに二一・二なり、更に我國の乳兒死亡は最も高率を示し文明國中其の比を見ざる所なり、今之を最近の統計に付て見るに昭和五年に本邦は出生百に付一二・四にして之を最近に於ける英虞蘭及威爾斯の六・〇獨逸の八・四佛蘭西の七・八米國の六・五和蘭の五・二等に比し著しく高率なり。次に國民の疾病に付觀るに結核、花柳病、癩、トラホーム等の慢性傳染病等の蔓延甚しくして就中結核病の如き年々死亡者のみにても十一

萬を下らず、最近昭和五年の統計に依れば人口一萬に付一八・六の高率を示せり之を最近に於ける英
 蘭及威爾斯の九・六獨逸の八・七等に比し二倍餘の状況なり、トラホームの如きも都市農村を通じて
 蔓延著しく全國に亘り八、九百萬の患者あり、癩に付ては我國は支那、印度と共に世界三大癩病國と
 稱せられ患者約三萬あり其の他寄生蟲の如き農民の約八割を侵しつゝあり、次に急性傳染病は本邦は
 地理的に支那、印度等の病源地の影響を受け年々コレラ、ペスト等の侵襲を受けざること無き状態にあ
 り、又腸チフス、赤痢の如きは其の流行の著しき四時之が發生を絶たず是亦諸外國に其の比を見ず、
 腸チフスは最近の統計に依れば本邦は人口十萬に對する死者一二・一にして英蘭及威爾斯の〇・九
 獨逸の二・〇等に比すれば十數倍又は數倍の高率なり、其の外一般疾病に就き會て内務省及各地方廳が
 施行せし農村調査の成績に依れば農村民の大多數は有病者なる状況なり。斯の如く死亡率高く且つ我
 國民の疾病殊に傳染病等の諸外國に比し多きは畢竟本邦の民度及一般生活の條件に基く所大なるもの
 と認めらるゝも又一面急激なる社會の變遷、産業の發達等に對し社會的保健施設の普及之に伴はざる
 こと例へば上下水道の不備、療養機關の不足、豫防施設の缺陷等に依るものと言ふべく且つ一般國民
 の保健に對する自覺尙乏しきも與て力ありと謂ふべし。斯く不良なる國民の保健衛生は延いて國民體
 格の劣弱を來し體力の如き歐米人に比し著しく劣等にして我國壯丁の如きも最近昭和五年に於ける檢
 査成績に依れば身長五尺二寸七分體重僅に十四貫六十匁なり、又兒童の體格も一般不良にして殊に農

村兒童の劣れるは注意を要すべし、是等國民の保健如何は延いて國民の壽命等にも影響し之を最近の
 調査に基き各國と比較するに本邦は四二・〇六(一歳未満の男以下各國同じ)なるに英吉利は五五・五佛
 蘭西五二・二獨逸五六・〇丁抹六〇・三諸威五五・六瑞典五五・六和蘭五一・〇等何れも本邦人の平均
 壽命よりも長年なり即ち本邦國民保健の状況を各方面より觀察するに何れも諸外國に比し遜色あり。
 今後尙改善を要する幾多の事實存すと謂ふべし。

二、各國ノ生産率

(人口千ニ付生産)

年次	日本	英吉利	佛蘭西	伊太利	獨逸	埃地利	白耳義	和蘭	諸威
明治三十二年 (一八九九年)	三・三	三・五	二・九	三・九	三・八	三・八	三・八	三・〇	三・九
同 三十三年 (一九〇〇年)	三・七	三・三	二・四	三・〇	三・六	三・〇	三・〇	三・六	三・七
同 三十四年 (一九〇一年)	三・一	三・〇	三・〇	三・五	三・七	三・六	三・四	三・三	三・九
同 三十五年 (一九〇二年)	三・九	三・〇	二・六	三・四	三・一	三・〇	二・四	三・八	三・三
同 三十六年 (一九〇三年)	三・〇	三・〇	二・一	三・七	三・八	三・三	二・五	三・六	三・六
同 三十七年 (一九〇四年)	三・六	三・七	三・〇	三・六	三・一	三・七	三・一	三・四	三・六

同	三十八年	(一九〇五年)	三〇・五	二七・一	二〇・六	三二・七	三二・六	三二・八	三六・三	二七・一	三〇・八
同	三十九年	(一九〇六年)	二六・九	二七・〇	二〇・五	三三・一	三三・一	三三・〇	三三・七	二七・七	三〇・五
同	四十年	(一九〇七年)	三三・一	二六・三	一九・七	三二・七	三二・七	三三・〇	三三・四	二四・九	二六・三
同	四十一年	(一九〇八年)	三三・七	二六・六	二〇・一	三三・七	三三・七	三三・一	三三・六	二四・九	二九・七
同	四十二年	(一九〇九年)	三三・九	二五・七	一九・五	三三・七	三三・七	三三・〇	三三・四	二四・九	二九・七
同	四十三年	(一九一〇年)	三三・九	二五・〇	一九・六	三三・三	三三・三	三三・〇	三三・五	二四・九	二九・七
同	四十四年	(一九一一年)	三四・〇	二四・四	一九・七	三三・五	三三・五	三三・六	三三・四	二四・九	二九・七
同	四十五年	(一九一二年)	三四・三	三四・一	一九・〇	三三・四	三三・四	三三・三	三三・三	二四・九	二九・七
大正	元年	(一九一三年)	三四・三	三四・三	一九・八	三三・七	三三・七	三三・五	三三・三	二四・九	二九・七
同	二年	(一九一四年)	三四・七	三四・九	一九・一	三三・〇	三三・〇	三三・八	三三・三	二四・九	二九・七
同	三年	(一九一五年)	三四・一	三三・一	一九・二	三三・五	三三・五	三三・八	三三・三	二四・九	二九・七
同	四年	(一九一六年)	三四・七	三三・二	一九・五	三三・〇	三三・〇	三三・九	三三・三	二四・九	二九・七
同	五年	(一九一七年)	三四・三	三二・二	一九・三	三三・五	三三・五	三三・九	三三・三	二四・九	二九・七
同	六年	(一九一八年)	三四・三	三二・二	一九・三	三三・五	三三・五	三三・九	三三・三	二四・九	二九・七
同	七年	(一九一八年)	三四・三	三二・二	一九・三	三三・五	三三・五	三三・九	三三・三	二四・九	二九・七
同	八年	(一九一九年)	三四・六	三二・一	一九・〇	三三・四	三三・四	三三・八	三三・三	二四・九	二九・七

同	九年	(一九二〇年)	三六・二	三三・四	三二・八	三三・九	三三・三	三三・一	三三・三	二六・八	二六・二
同	十年	(一九二一年)	三五・一	三三・六	三〇・七	三三・三	三三・三	三三・八	三三・三	二六・八	二六・二
同	十一年	(一九二二年)	三四・三	三〇・九	一九・三	三三・〇	三三・〇	三三・一	三三・一	二六・八	二六・二
同	十二年	(一九二三年)	三四・九	三〇・二	一九・一	三三・二	三三・二	三三・一	三三・一	二六・八	二六・二
同	十三年	(一九二四年)	三四・八	一九・三	一九・七	三三・四	三三・四	三三・五	三三・七	二六・八	二六・二
同	十四年	(一九二五年)	三四・九	一九・七	一九・〇	三三・八	三三・八	三三・七	三三・七	二六・八	二六・二
大正	十五年	(一九二六年)	三四・八	一九・二	一九・八	三三・二	三三・二	三三・七	三三・七	二六・八	二六・二
昭和	元年	(一九二七年)	三四・六	一七・一	一八・一	三三・〇	三三・〇	三三・四	三三・四	二六・八	二六・二
同	二年	(一九二八年)	三四・四	一七・三	一八・二	三三・二	三三・二	三三・六	三三・六	二六・八	二六・二
同	三年	(一九二九年)	三四・〇	一七・〇	一七・七	三三・二	三三・二	三三・九	三三・九	二六・八	二六・二
同	四年	(一九三〇年)	三四・四	一七・一	一七・七	三三・二	三三・二	三三・八	三三・八	二六・八	二六・二
同	五年	(一九三〇年)	三四・四	一七・一	一七・七	三三・二	三三・二	三三・八	三三・八	二六・八	二六・二

表中の印ヲ付シタルモノハ概數ナリ

三、世界主要都市ノ生産率

(人口千ニ付生産)

瑞	西	瑞	勃	洪	白	和	伊	獨	獨
マ	ス	ソ	プ	ブ	ヘ	ロ	ミ	ラ	ド
ド	ト	フ	タ	ラ	ー	ー	ニ	ハ	レ
リ	ツ	ン	ベ	ッ	ー	ー	ユ	ン	ス
ッ	ク	イ	ス	セル	グ	マ	ン	プ	デ
ト	ホルム	ア	ト	市	市	市	市	ル	ウ
市	市	市	市	市	市	市	市	市	市
二六・四	一〇・二	一九・八	一八・〇	一一・九	一六・七	一五・〇	一一・三	一一・二	一一・二
二六・二	一〇・八	一九・八	一七・四	一一・〇	一七・四	一一・四	一一・四	一一・四	一一・四
二四・八	一一・二	二二・一	一六・〇	一一・五	一七・二	一一・七	一一・三	一一・二	一一・一
二四・七	一一・九	二一・三	一七・四	一一・六	一八・六	一一・六	一一・九	一一・〇	一一・〇
二四・八	一一・二	二二・〇	一七・八	一一・三	一八・六	一一・七	一一・七	一一・七	一一・七

米	佛	(愛)	英	函	名	長	神	横	大	東	日
パ	リ	蘭	吉	廣	古	崎	戸	濱	阪	都	本
リ	オ	自	利	島	屋						
一	ン	由		市	市	市	市	市	市	市	市
市	市	國		市	市	市	市	市	市	市	市
一四・八	一七・五	二五・〇	一七・〇	三三・六六	二二・一八	二七・九一	二五・二〇	三二・八九	二四・九七	二五・一〇	二〇・五九
一五・〇	一七・五	二五・二	一七・三	三六・三〇	二四・五〇	二六・九四	二七・〇七	三三・四五	二六・九五	二六・八〇	二二・八二
一五・六	一七・四	二五・三	一七・九	三四・六二	二五・一五	二六・九六	二六・〇四	二九・一五	二六・一〇	二五・四八	二四・五七
一六・一	一八・〇	二六・二	一八・六	三三・四一	二六・〇三	二七・二一	二六・七二	二九・三二	二七・四三	二七・〇一	二五・二〇
一六・二	一七・一	一七・三	一九・二	三五・四五	二六・七四	二八・三三	二七・一四	三二・六八	二六・六八	二七・三一	二八・八〇

昭和四年
同三年
同二年
同元年
大正十四年

明治四十五年	(一九一二年)	二・八	〇・二	〇・九	一・四	〇・九	〇・八	一・〇	一・一	〇・六
大正元年	(一九一三年)	二・八		〇・九	一・三	〇・八	〇・九	一・〇	一・一	〇・六
大正二年	(一九一四年)	二・七		〇・八	一・三	〇・八	〇・七	一・〇	一・一	〇・六
同 三年	(一九一五年)	二・六		〇・五	一・三	〇・六	〇・七	一・〇	一・〇	〇・六
同 四年	(一九一六年)	二・五		〇・五	一・〇	〇・五	〇・六	一・一	一・一	〇・五
同 五年	(一九一七年)	二・五		〇・五	一・〇	〇・五	〇・六	一・一	一・一	〇・五
同 六年	(一九一七年)	二・五		〇・五	一・〇	〇・五	〇・六	一・〇	一・〇	〇・六
同 七年	(一九一八年)	二・六		〇・六	〇・九	〇・四	〇・五	一・〇	一・〇	〇・六
同 八年	(一九一九年)	二・四		〇・六	一・〇	〇・四	〇・五	一・〇	一・〇	〇・六
同 九年	(一九二〇年)	二・六		〇・九	一・四	〇・七	〇・七	一・一	一・一	〇・五
同 十年	(一九二一年)	二・四		〇・九	一・五	〇・八	〇・七	一・一	一・一	〇・四
同 十一年	(一九二二年)	二・三		〇・八	一・四	〇・八	〇・七	一・〇	一・〇	〇・五
同 十二年	(一九二三年)	二・三		〇・八	一・三	〇・七	〇・七	一・〇	一・〇	〇・五
同 十三年	(一九二四年)	二・一		〇・七	一・二	〇・七	〇・七	〇・九	〇・九	〇・五
同 十四年	(一九二五年)	二・一		〇・七	一・二	〇・七	〇・六	〇・九	〇・六	〇・五

大正十五年	(一九二六年)	二・一	一	〇・八	一・一	〇・七	〇・六	〇・八	〇・六	〇・五
昭和元年	(一九二七年)	一・九	一	〇・七	一・〇	〇・六	〇・六	〇・八	〇・六	〇・四
昭和二年	(一九二八年)	一・九	一	〇・七	一・〇	〇・六	〇・六	〇・八	〇・六	〇・四
同 三年	(一九二九年)	一・九	一	〇・七	一・〇	〇・六	〇・六	〇・八	〇・六	〇・五
同 四年	(一九三〇年)	一・八	一	〇・七	一・〇	〇・六	〇・六	〇・八	〇・六	〇・四
同 五年	(一九三〇年)	一・八	一	〇・七	一・〇	〇・六	〇・六	〇・八	〇・六	〇・四

表中(*)印ヲ付シタルモノハ概數ナリ

五、各國ノ死亡率

(人口千ニ付死亡)

年	日本	英吉利	佛蘭西	伊太利	獨逸	奧地利	白耳義	和蘭	諾威
明治三十二年 (一八九九年)	三・二	一八・三	二・一	二・九	二・五	二・三	一八・八	一七・一	一六・八
同 三十三年 (一九〇〇年)	三・三	一八・四	二・九	三・八	三・一	二・五	一九・三	一七・九	一五・八
同 三十四年 (一九〇一年)	三・四	一九・一	三・〇	三・〇	三・七	二・四	一九・三	一七・九	一五・〇
同 三十五年 (一九〇二年)	三・九	一六・五	一九・五	三・三	一九・四	二・四	一七・三	一六・三	一三・九
同 三十六年 (一九〇三年)	三・〇	一五・八	一九・三	三・四	二〇・〇	三・八	一七・〇	一五・六	一四・八

同	三十七年	(一九〇四年)	三〇・三	一六・六	一九・四	三二・三	一九・六	三三・一	一六・九	一五・九
同	三十八年	(一九〇五年)	三二・一	一五・六	一九・六	三三・〇	一九・八	三五・一	一六・五	一四・八
同	三十九年	(一九〇六年)	一九・八	一五・七	一九・九	三〇・九	一八・三	三三・六	一六・四	一三・七
同	四十年	(一九〇七年)	二〇・九	一五・五	二〇・三	三〇・九	一八・〇	三三・七	一五・八	一四・三
同	四十一年	(一九〇八年)	二〇・九	一五・三	一八・九	三三・八	一八・一	三三・四	一六・五	一四・三
同	四十二年	(一九〇九年)	二二・九	一五・〇	一九・一	三二・七	一七・三	三三・九	一五・八	一三・六
同	四十三年	(一九一〇年)	二二・九	一四・〇	一七・八	一九・九	一六・三	三三・三	一五・二	一三・六
同	四十四年	(一九一一年)	二〇・三	一四・八	一九・四	三二・四	一七・三	三二・八	一六・四	一三・二
明治四十五年	元	(一九一二年)	一九・九	一三・九	一七・三	一九・二	一五・六	三〇・四	一四・八	一三・五
大正二年		(一九一三年)	一九・四	一四・三	一七・七	一八・七	一五・〇	一八・二	一四・六	一三・三
同	三年	(一九一四年)	二〇・五	一四・四	一七・一	一七・九	一九・〇	一八・一	一四・一	一三・五
同	四年	(一九一五年)	二〇・一	一六・二	二六・二	二〇・四	二二・四	二二・三	一三・一	一三・四
同	五年	(一九一六年)	二二・五	一四・八	二三・九	一九・九	一九・二	二〇・九	一三・一	一三・八
同	六年	(一九一七年)	二二・四	一四・八	二二・六	一九・三	二〇・六	二二・九	一六・三	一三・六

同	七年	(一九一八年)	三六・八	一七・八	二六・六	三三・〇	二四・四	二六・四	二〇・八	一七・三
同	八年	(一九一九年)	三三・八	一四・八	一九・〇	一八・八	一五・六	二〇・三	一五・〇	一三・八
同	九年	(一九二〇年)	三三・四	一三・二	一七・二	一八・七	一五・一	一八・九	一三・八	一二・〇
同	十年	(一九二一年)	三三・七	一三・五	一七・九	一七・四	一三・九	一六・八	一三・八	一一・一
同	十一年	(一九二二年)	三三・三	一三・一	一七・五	一九・九	一四・五(※)	一七・四	一四・一	一一・〇
同	十二年	(一九二三年)	三三・八	一一・八	一六・九	一六・〇	一三・九(※)	一五・五	一三・一	一一・六
同	十三年	(一九二四年)	三三・三	一二・六	一六・九	一六・八	一三・三(※)	一五・〇	一三・〇	一一・三
同	十四年	(一九二五年)	三〇・三	一二・四	一七・四	一六・八	一一・九(※)	一四・四	一三・一	一一・〇
大正十五年		(一九二六年)	一九・三	一一・九	一七・四	一六・六	一一・七(※)	一四・九	一三・三	一〇・八
昭和二年		(一九二七年)	一九・八	一二・五(※)	一六・五	一五・八	一一・〇	一三・五	一〇・二	一一・二
同	三年	(一九二八年)	一九・九	一一・九(※)	一六・五	一五・八	一一・六	一三・三	九・六	一〇・八
同	四年	(一九二九年)	二〇・〇	一(※)	一八・〇(※)	一六・二(※)	一一・六	一(※)	一〇・七	一一・二
同	五年	(一九三〇年)	一八・三	一(※)	一五・七	一(※)	一一・二(※)	一三・五	一(※)	一(※)

表中(※)印ヲ付シタルモノハ概數ナリ

六、世界主要都市ノ死亡率

(人口千ニ付死亡)

瑞	西	瑞	勃	洪	白	和	伊	(*)	(*)	獨	(*)		
マドリット市	スペイン市	ストックホルム市	ソフィア市	ブダペスト市	ブラチスラヴァ市	ヘルシンキ市	ローマ市	ミラノ市	ラビネン市	ハンブルク市	ドレスデン市	ベルリン市	ニューヨーク市
一九三三	一一・五		一四・四	一一・三	一〇・六		一三・三	一一・八	一一・三	一一・〇	一一・一	一一・一	一二・八
一九二二	一一・〇	一三・三	一二・九	九・六	九・九	一一・一	一三・七	一一・五	一〇・九	一〇・六	一一・八	一一・二	一三・〇
一九二六	一一・九	一三・二	一五・五	九・九	九・八	一一・七	一三・〇	一一・六	一〇・七	一〇・六	一一・六	一一・四	一一・八
二〇・〇	一一・四	一二・二	一三・六	一〇・四	九・三	一三・〇	一四・七	一一・二	一〇・七	一〇・三	一一・六	一一・七	一二・八
一九二七	一一・三	一二・九	一五・六	一〇・二	九・一	一七・三	一四・〇	一一・八	一一・〇	一〇・三	一一・〇	一一・七	一一・五

一五

米	佛	(愛爾蘭自由國)	(*)	(*)	英	函	廣	名	長	神	横	(*)	(*)	日
パリ市	ダブリン市	マンチエスタ市	ロンドン市	クイーンズバロ市	エジンバラ市	函館市	廣島市	名古屋市	長崎市	神戸市	横浜市	大	京	東
一五・一	一六・八	一五・三	一四・八	一六・七	一五・〇	二一・三〇	一八・〇二	一九・〇六	一七・〇五	一九・一九	一八・六七	一九・一三	一八・九四	一三・〇九
一三・六	一五・〇	一二・九	一一・六	一二・八	一三・七	二〇・五五	一八・四四	一八・一〇	一六・九七	一八・二八	一八・三〇	一六・九八	一七・七六	一三・六四
一三・五	一五・一	一三・七	一一・七	一三・五	一四・三	二三・五二	一七・一二	一九・五五	一六・九三	一八・三四	一七・七六	一八・二五	一七・九五	一四・四八
一五・〇	一六・〇	一四・八	一一・四	一三・四	一三・四	二一・一六	一六・四七	一九・五五	一八・六一	一八・三七	一九・四四	一六・六七	一七・三〇	一四・三七
一四・七	一五・二	一四・一	一一・七	一三・六	一四・八	二三・四三	一四・四七	一八・三五	一七・九六	一八・〇二	二一・二四	一七・四七	一六・九五	一六・六〇

一四

ベ ル ン 市	九・五	一〇・三	一〇・二	一〇・五	一三・四	一七・八	一三・四
ゼ ネ バ ン 市	一三・三	一〇・六	一二・七	一一・四	一一・四	一一・四	一一・〇
瀋 洲 市	一一・八	九・五	九・八	九・八	九・八	九・八	九・四
丁 抹 市	一一・六	一一・五	一〇・九	一一・一	一一・一	一一・一	一〇・六
埃 及 市	一一・六	一一・五	一〇・九	一一・一	一一・一	一一・一	一〇・六
加 奈 陀 市	一一・六	一一・五	一〇・九	一一・一	一一・一	一一・一	一〇・六
伯 刺 西 爾 市	一一・六	一一・五	一〇・九	一一・一	一一・一	一一・一	一〇・六
露 西 亞 市	一四・八	一四・七	一四・〇	一四・〇	一四・〇	一四・〇	一四・三
波 蘭 市	一五・〇	一三・九	一四・〇	一四・〇	一四・〇	一四・〇	一四・七
智 利 市	一三・七	一三・七	一四・四	一四・三	一四・三	一四・三	一四・一
葡 萄 牙 市	二一・五	一八・五	二一・三	二一・三	二一・三	二一・三	二四・四

備考 (※)印ヲ附シタルモノハ人口百萬以上ヲ有スル都市トス。

七、各國ニ於ケル人口千ニ對スル人口ノ自然増加

明治三十二年 (一八九九年)	日本	英吉利	佛蘭西	伊太利	獨逸	奧地利	白耳義	和蘭	諸威
同 三十三年 (一九〇〇年)	一〇・三	一〇・三	〇・八	二・〇	二・四	二・六	一〇・〇	一四・九	一三・二
同 三十四年 (一九〇一年)	一一・四	九・八	〇・五	九・三	二・六	九・八	九・七	一三・七	一三・九
同 三十五年 (一九〇二年)	一二・七	一〇・九	一・九	一〇・五	二・一	二・三	二・三	一五・一	一四・九
同 三十六年 (一九〇三年)	一三・〇	一一・五	二・一	一一・二	二・五	二・三	二・一	一五・五	一五・三
同 三十七年 (一九〇四年)	一三・三	一二・一	二・一	一二・二	二・九	二・四	二・一	一六・〇	一三・八
同 三十八年 (一九〇五年)	一三・六	一二・一	二・一	一二・七	三・一	二・六	二・一	一五・四	一三・六
同 三十九年 (一九〇六年)	一三・九	一二・三	二・一	一三・〇	三・二	二・七	二・一	一五・五	一三・四
同 四十年 (一九〇七年)	一四・一	一〇・八	〇・五	一三・二	三・三	二・八	二・一	一五・六	一三・四
同 四十一年 (一九〇八年)	一四・二	一〇・七	〇・五	一三・三	三・四	二・九	二・一	一五・七	一三・一
同 四十二年 (一九〇九年)	一四・三	一〇・七	〇・五	一三・四	三・五	三・〇	二・一	一五・八	一三・〇
同 四十三年 (一九一〇年)	一四・四	一〇・七	〇・五	一三・五	三・六	三・一	二・一	一五・九	一三・〇
同 四十四年 (一九一一年)	一四・五	一〇・七	〇・五	一三・六	三・七	三・二	二・一	一六・〇	一三・〇

明治四十五年	(一九一二年)	一三四	一〇三	一五	一四三	一三七	一〇九	七八	一五八	一一九
大正元年	(一九一三年)	一三八	九九	一一	一三〇	一三四	一三四	五八	一五九	一一八
同 二年	(一九一四年)	一三二	九五	(一)	一三一	一三四	五二	六二	一五九	一一七
同 三年	(一九一五年)	一三〇	五九	(一)	一〇一	一〇一	二九	三一	一三八	一〇二
同 四年	(一九一六年)	一二二	六四	(一)	四三	四〇	六二	〇二	一三六	一〇四
同 五年	(一九一七年)	一〇九	三五	(一)	〇三	六六	九〇	〇〇	一三〇	一一五
同 六年	(一九一八年)	五〇	〇四	(一)	四九	一〇五	二二	九六	一三〇	七四
同 七年	(一九一九年)	八八	四三	(一)	二六	四五	二四	一一	一一一	八九
同 八年	(一九二〇年)	一〇八	二五	(一)	三一	一〇八	三四	八三	一六三	一三四
同 九年	(一九二一年)	一二四	一〇一	三〇	二九	一一三	六〇	八一	一六三	一二五
同 十年	(一九二二年)	一二八	七八	一八	三五	八六	五八	六二	一四四	一一一
同 十一年	(一九二三年)	一二三	八四	二四	二二	七一	七二	七三	一六〇	一〇九
同 十二年	(一九二四年)	一二六	六七	一八	二六	八三	六七	七〇	一五三	九八
同 十三年	(一九二五年)	一四七	六三	一六	一〇	八八	六二	六七	一四五	八五
同 十四年	(一九二六年)	一五六	六三	一四	一〇	七九	四三	五七	一三九	八六
大正十五年	(一九二七年)	一三四	一〇三	一五	一四三	一三七	一〇九	七八	一五八	一一九

昭和二年	(一九二七年)	一三八	四六	一六	一一三	六四	四九	一三八	六七
同 三年	(一九二八年)	一四五	五三	一七	一〇四	七〇	五二	一三七	六九
同 四年	(一九二九年)	一三〇	(一)	(*)	九二	五三	(*)	一二一	六四
同 五年	(一九三〇年)	一四二	(一)	(*)	(*)	六五	三三	(*)	(*)

表中一ハ減少ニシテ(*)印ヲ付シタルモノハ概數ナリ

八、各國乳兒死亡率 (生産百ニ付一歳未滿者ノ死亡)

日本	一三七	一四三	一六六	一九六	二〇八	二五〇	一六三	一七五	九六
英 國	一四七	一五一	一七一	一八五	二〇五	二四七	一六四	一六五	九八
威 爾 斯	一四七	一五一	一七一	一八五	二〇五	二四七	一六四	一六五	九八
佛 蘭 西	一五三	一五六	一五九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一	九六
伊 太 利	一五三	一五六	一五九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一	九六
獨 逸	一五七	一三八	一三九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一	九六
奧 地 利	一五七	一三八	一三九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一	九六
匈 牙 利	一五七	一三八	一三九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一	九六
波 蘭	一五七	一三八	一三九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一	九六
瑞 士	一五七	一三八	一三九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一	九六
瑞 典	一五七	一三八	一三九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一	九六
芬 蘭	一五七	一三八	一三九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一	九六
丹 麥	一五七	一三八	一三九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一	九六
挪 威	一五七	一三八	一三九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一	九六
日 本	一五七	一三八	一三九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一	九六
大 正 四 年	(一九一五年)	一五七	一三八	一三九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一
大 正 十 五 年	(一九二六年)	一五七	一三八	一三九	一六八	二〇一	二二六	一五八	一五一

名古屋市	廣島市	函館市	英吉利市	米國市	獨逸市	ベルリン市	プロスロウ市	ドレンゲン市	ハンブルグ市	ライプツヒゲン市	ミューンヘン市
(愛爾蘭自由國)	(獨逸)	(英吉利)	(米國)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)
マンチェスター市	リヴァプール市	ダブリン市	シカゴ市	クリフランド市	デトロイト市	ニューヨーク市	ヒラデルフィア市	ベルリン市	プロスロウ市	ドレンゲン市	ハンブルグ市
一九四八	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二
一九一六	一九一六	一九一六	一九一六	一九一六	一九一六	一九一六	一九一六	一九一六	一九一六	一九一六	一九一六
一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二
一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二
一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二
一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二
一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二
一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二

大正十四年	大正十三年	大正十二年	大正十一年	大正十年	大正九年	大正八年	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	大正一年	大正五年
昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和一年	昭和五年
昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和一年	昭和五年
昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和一年	昭和五年
昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和一年	昭和五年
昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和一年	昭和五年
昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和一年	昭和五年
昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和一年	昭和五年
昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和一年	昭和五年
昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和一年	昭和五年
昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和一年	昭和五年

九、世界主要都市ノ乳兒死亡

(出生千ニ付)

佛蘭西	露西亞	伊太利	西班牙	瑞典	瑞典	洪牙利	丁抹	和蘭	波蘭	白耳義
パリ	モスク	ミラノ	マドリッド	ゲルネン	ストックホルム	ブダペスト	コペンハーゲン	ヘーグ	ワルソ	ワルソ
市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市
一〇一	八五	一三一	八九	一五	四六	一〇一	五六	四一	二四	二四
一九七	一〇一	一二九	一〇三	一二二	五〇	九五	五九	四一	二六	二六
八六	八九	一四六	七九	一〇七	三〇	二五	五九	四八	四八	四八
九八	九四	一三四	八九	一三七	三〇	一一	六九	四一	四一	四三
八九	八三	一三〇	九一	一四六	四八	一二五	六七	三六	一六〇	一六〇

ブラツセル市	リオ・デ・ジャネロ市	加奈陀	濠洲	埃及
モントリアル市	シンドニー市	カイロ市		
八一	一五七	一五〇	五一	二五四
六六	一五三	一四八	五八	二二二
七九	一四八	一三二	二二二	二二二
八七	一七七	一四四	六一	二二二
八二	一八五			二四七

備考 (*印ヲ附シタルモノハ人口百萬以上ヲ有スル都市トス。

一〇、米國大都市ノ人口出生率及乳兒死亡 (一九二八年)

Birth Control Review April 1930 Page 119

ニューヨーク	シカゴ	フィラデルフィア	デトロイト	クロスタウン	クローヴ
人口	人口千ニ付出生率	生産千ニ付乳兒死亡			
六、〇一七、七〇〇	二一・〇	六五・五	三、一五七、四〇〇	一七・九	七〇・六
二、〇六四、三〇〇	二〇・八	五七・三	一、三七八、九〇〇	一四・八	七七・四
一、二〇〇、〇〇〇	一七・七	六四・五	一、〇一〇、三〇〇	一七・七	六〇・二
八三〇、三七〇	一九・二	七九・三			

ボ サン フラン シス コ	七九 九、二〇〇	二三五	七七・一
	六七〇、〇〇〇	一三三・二	四五・六

一一、日、英、獨、米各國ノ日齡月齡別乳兒死亡比較
(生産千ニ付)

生後五日迄	五日以上十日	十日以上十五日	十五日以上一ヶ月	一ヶ月以上二ヶ月	二ヶ月以上三ヶ月	三ヶ月以上六ヶ月	六ヶ月以上一年
二二・〇四	一一・九一	七・八四	一三・五八	五五・三七	一六・八八	一一・六三	二二・二九
(一週迄)	(一週迄)	(一週迄)	(一週迄)	(一週迄)	(一週迄)	(一週迄)	(一週迄)
二二・六	九・五	三・四	七・五	四四・五	九・二	八・二	一六・二
(六日迄)	(一週一週)	(二週一週)	(三週一週)	(三週一週)	(三週一週)	(三週一週)	(三週一週)
二八・三	四・三	三・〇	二・四	三八・〇	六・〇	四・七	一〇・三
(昭和四年)	(昭和三年)	(昭和三年)	(昭和三年)	(昭和三年)	(昭和三年)	(昭和三年)	(昭和三年)
三三・九四	二二・二九	一四・二	九・二	四・二	一・六三	一・六三	三三・九四
(昭和四年)	(昭和三年)	(昭和三年)	(昭和三年)	(昭和三年)	(昭和三年)	(昭和三年)	(昭和三年)

一二、日、英、米、獨、佛乳兒死亡原因比較
(生産千ニ付)

先天性畸形	先天性弱質	早産及産後因スル障碍	先天性梅毒	麻疹	猩紅熱	百日咳	流行性感冒	流行性腦脊髄膜炎	呼吸器ノ結核	肺膜及中樞神經ノ結核	其他ノ臓器ノ結核	小兒癩	氣管支炎	肺炎(氣管支肺炎ヲ含ム)	下痢及腸炎	外科因	乳兒殺死
三二・九五	二・二七	一・七〇	二・五七	〇・〇一	二・五二	〇・一四	一・〇六	〇・〇一	〇・三一	〇・一八	〇・一八	八・五三	五・三四	〇・九四	三・五〇	三・〇二	一・〇一
(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)	(昭和四年)
四・八	四・八	二・〇四	〇・八	〇・〇二	二・四	〇・二	一・二	〇・一六	〇・一四	〇・〇六	〇・三五	二・九二	四・二二	一・七一	五・七二	〇・九	〇・八
(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)	(一九二七年)
三七・〇九	〇・八二	一・一一	〇・〇六	二・五三	〇・二三	二・五〇	〇・二四	〇・一一	〇・四五	〇・四五	〇・五七	〇・八二	〇・二二	一・二五	二・七九	〇・四五	〇・三四
(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)	(獨逸)
六・二	三・三	二・二六	〇・六	一・一	二・三	二・四	〇・一	〇・二	〇・二	〇・三	〇・一	〇・四	〇・五	一・〇九	九・七	一・〇	〇・一
(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)	(米國)
一九・八	〇・九三	〇・五	一・三五	一・五四	〇・三九	一・五四	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一	四・五四	一・七〇	二・二二	一六・〇五	〇・五九	〇・五九
(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)	(佛國)

不明ノ診斷不詳ノ原因 六・七九 〇・〇七 一・〇〇 二・二 八・七五

一三、英虞蘭及威爾斯ニ於ケル出生千ニ付一歲未滿者ノ死亡率

年	次	死亡	率
一九〇〇	一		一五
一九〇一	一		三六
一九〇二	一		一七
一九〇三	一		〇九
一九〇四	一		〇七
一九〇五	一		〇六
一九〇六	一		〇九
一九〇七	一		〇七
一九〇八	一		〇六
一九〇九	一		〇七
一九一〇	一		〇六
一九一一	一		〇六
一九一二	一		〇六
一九一三	一		〇七
一九一四	一		〇六
一九一五	一		〇七
一九一六	一		〇六
一九一七	一		〇七
一九一八	一		〇六
一九一九	一		〇七
一九二〇	一		〇六
一九二一	一		〇六
一九二二	一		〇六
一九二三	一		〇六
一九二四	一		〇六
一九二五	一		〇六
一九二六	一		〇六
一九二七	一		〇六
一九二八	一		〇六
一九二九	一		〇六
一九三〇	一		〇六
一九三一	一		〇六
一九三二	一		〇六
一九三三	一		〇六
一九三四	一		〇六
一九三五	一		〇六
一九三六	一		〇六
一九三七	一		〇六
一九三八	一		〇六
一九三九	一		〇六
一九四〇	一		〇六

一四、英虞蘭及威爾斯ニ於ケル出生千ニ付一歲未滿者ノ死亡

年	四週間未滿	四週間以上三ヶ月未滿	三ヶ月以下	三ヶ月以上六ヶ月未滿	六ヶ月以上一年未滿	一年以下計
一九〇〇	一	一	七	三	四	一五
一九〇一	一	一	七	三	四	一五
一九〇二	一	一	六	三	四	一四
一九〇三	一	一	五	三	四	一三
一九〇四	一	一	五	三	四	一三
一九〇五	一	一	四	三	四	一二
一九〇六	一	一	四	三	四	一二
一九〇七	一	一	四	三	四	一二
一九〇八	一	一	四	三	四	一二
一九〇九	一	一	五	三	四	一二
一九一〇	一	一	五	三	四	一二
一九一一	一	一	五	三	四	一二
一九一二	一	一	五	三	四	一二
一九一三	一	一	四	三	四	一二
一九一四	一	一	四	三	四	一二
一九一五	一	一	四	三	四	一二
一九一六	一	一	五	三	四	一二
一九一七	一	一	五	三	四	一二
一九一八	一	一	五	三	四	一二
一九一九	一	一	五	三	四	一二
一九二〇	一	一	四	三	四	一二
一九二一	一	一	四	三	四	一二
一九二二	一	一	四	三	四	一二
一九二三	一	一	四	三	四	一二
一九二四	一	一	四	三	四	一二
一九二五	一	一	四	三	四	一二
一九二六	一	一	四	三	四	一二
一九二七	一	一	四	三	四	一二
一九二八	一	一	四	三	四	一二
一九二九	一	一	四	三	四	一二
一九三〇	一	一	四	三	四	一二
一九三一	一	一	四	三	四	一二
一九三二	一	一	四	三	四	一二
一九三三	一	一	四	三	四	一二
一九三四	一	一	四	三	四	一二
一九三五	一	一	四	三	四	一二
一九三六	一	一	四	三	四	一二
一九三七	一	一	四	三	四	一二
一九三八	一	一	四	三	四	一二
一九三九	一	一	四	三	四	一二
一九四〇	一	一	四	三	四	一二

一五、英虞蘭及威爾斯ニ於ケル妊娠及其ノ他ノ疾患ニ於ケル婦人死亡率

年	次	登錄分娩數	死亡數	產褥熱	其他	計
一九一一年	一	八八一、二三八	三、四一三	一、四三	二、四四	三、八七

ウ	チ	ウ	ス	ロ	パ	ナ	モ	ミ	ロ	ラ	ヘ	ハ	グ	ジ	フ	ド	コ	ブ	ア	ベ	ア	キ
ウ	ウ	ト	ツ	ト	リ	ボ	ス	ラ	ン	イ	ン	ラ	ン	ラ	ラ	レ	ツ	ラ	レ	ム	ム	ン
ニ	ル	イ	ク	ト	リ	ボ	ス	ラ	ン	イ	ン	ラ	ン	ラ	ラ	レ	ツ	ラ	レ	ム	ム	ン
ツ	ツ	ホル	ホル	マ	ト	リ	ボ	コ	ド	ツ	グ	グ	ゴ	ネ	フ	デ	ゲ	セ	ロ	ダ	ダ	イ
ス	ビ	ン	ム	マ	ト	リ	ボ	コ	ド	ツ	グ	グ	ゴ	ネ	フ	デ	ゲ	セ	ロ	ダ	ダ	イ

一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七

一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七

一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七

一八、世界主要都市ノ結核死亡

(人口十萬ニ付)

備考 一、平均壽命トハ各歳ノ年齢者ガ今後生存シ得ヘキ豫定年數ノ平均ヲ謂フ
 二、表中本邦ハ大正十年—同十四年、伊太利ハ一九〇一—一九一〇年、獨逸ハ一九二四—一九二六年、瑞典、諾威ハ一九一—一九二〇年、和蘭ハ一九〇〇—一九〇九年、丁抹ハ一九二—一九二五年、英吉利ハ一九二〇—一九二二年、佛蘭西ハ一九二〇—一九二三年ノ事實ニ依リテ算出シタルモノナリ

都 市 名	昭和二十八年	昭和二十七年	昭和二十六年
東京	一九五	二四〇	二一五
大阪	二二〇	二三五	二四八
名古屋	一六〇	一六三	一三三
長崎	一八九	二四〇	二八七
京都	二二六	二一一	二七三
神戶	二七三	二七五	二四八
函館	二三三	二二二	一五四

一〇〇歳	九〇歳	八〇歳
女男	女男	女男
〇・八三	二・〇四	四・四一
〇・八三	一・九五	三・八七
???	???	???
一・六二	二・四〇	四・三三
一・六二	二・四〇	四・三三
一・七〇	二・六八	四・七七
一・七〇	二・六八	四・七七
二・〇二	二・〇二	四・〇六
二・〇二	二・〇二	四・〇六
二・四	二・三	四・九
二・四	二・三	四・九
一・三三	二・八九	五・二六
一・三三	二・八九	五・二六
一・五九	三・〇九	六・七三
一・五九	三・〇九	六・七三
三・〇	三・八	五・二
三・〇	三・八	五・二

伊 太 利	獨逸			米國		佛國		(愛爾蘭自由國)		マ ロ リ グ エ バ イ ミ ン ン ガ ム	ロ リ グ エ バ イ ミ ン ン ガ ム	リ グ エ バ イ ミ ン ン ガ ム	グ エ バ イ ミ ン ン ガ ム	エ バ イ ミ ン ン ガ ム	バ イ ミ ン ン ガ ム			
	ミ ラ ハ ド ブ ベ ル	ラ ハ ド ブ ベ ル	ハ ド ブ ベ ル	ド ブ ベ ル	ブ ベ ル	ベ ル	ベ ル	ベ ル	ベ ル							ベ ル		
○ 六	○ 六	一 三	一 一	○ 五	○ 八	○ 七	一 四	一 六	四 一	一 二	一 一	○ 七	○ 九	一 〇	〇 七	〇 六	〇 二	〇 五
一 四	〇 四	一 二	一 三	〇 二	〇 六	二 七	二 〇	一 五	〇 六	二 五	一 四	一 四	〇 七	一 〇	〇 三	〇 三	〇 七	〇 三
二 〇	〇 四	〇 八	〇 二	〇 九	〇 七	一 六	一 五	一 三	一 二	五 九	三 九	一 二	〇 四	〇 六	一 〇	〇 八	〇 〇	〇 五

英 國	日 本		東 京	大 阪	横 濱	名 古屋	神 戸
	東 京	本 土					
二 〇 四	二 六 九	一 四 二	一 六 四	二 〇 一	一 五 一	二 八 一	一 六 四
二 一 九	一 七 二	一 三 〇	二 〇 七	二 八 一	一 六 四	二 八 一	一 六 四
二 〇 六	二 四 一	一 七 四	一 七 八	二 三 三	一 七 三	二 三 三	一 七 三

一九、世界主要都市ノ腸チフス死亡 (人口十萬ニ付)

南 米		北米合衆國				ケ ー ロ ー ニ ヒ ス ペ ル グ	
サ ン パ ウ ロ	ド ロ ソ ト	サ ン フ ラ ン シ ス コ	セ ン ト ル イ ス グ	ニ ュ ー ヨ ー ク	シ カ ゴ	ボ ス ト ン	ケ ー ロ ー ニ ヒ ス ペ ル グ
一 〇 七	四 四	九 二	七 五	八 九	八 四	八 二	九 七
一 〇 八	四 六	八 九	六 一	八 六	八 六	八 六	九 八
一 〇 〇	四 二	八 八	六 七	九 三	八 三	一 〇 一	一 〇 六